

ソロン語口語コーパスとその分析

風間 伸次郎

(東京外国語大学助教授)

0. ソロン語概説

0.1. 使用地域と人口

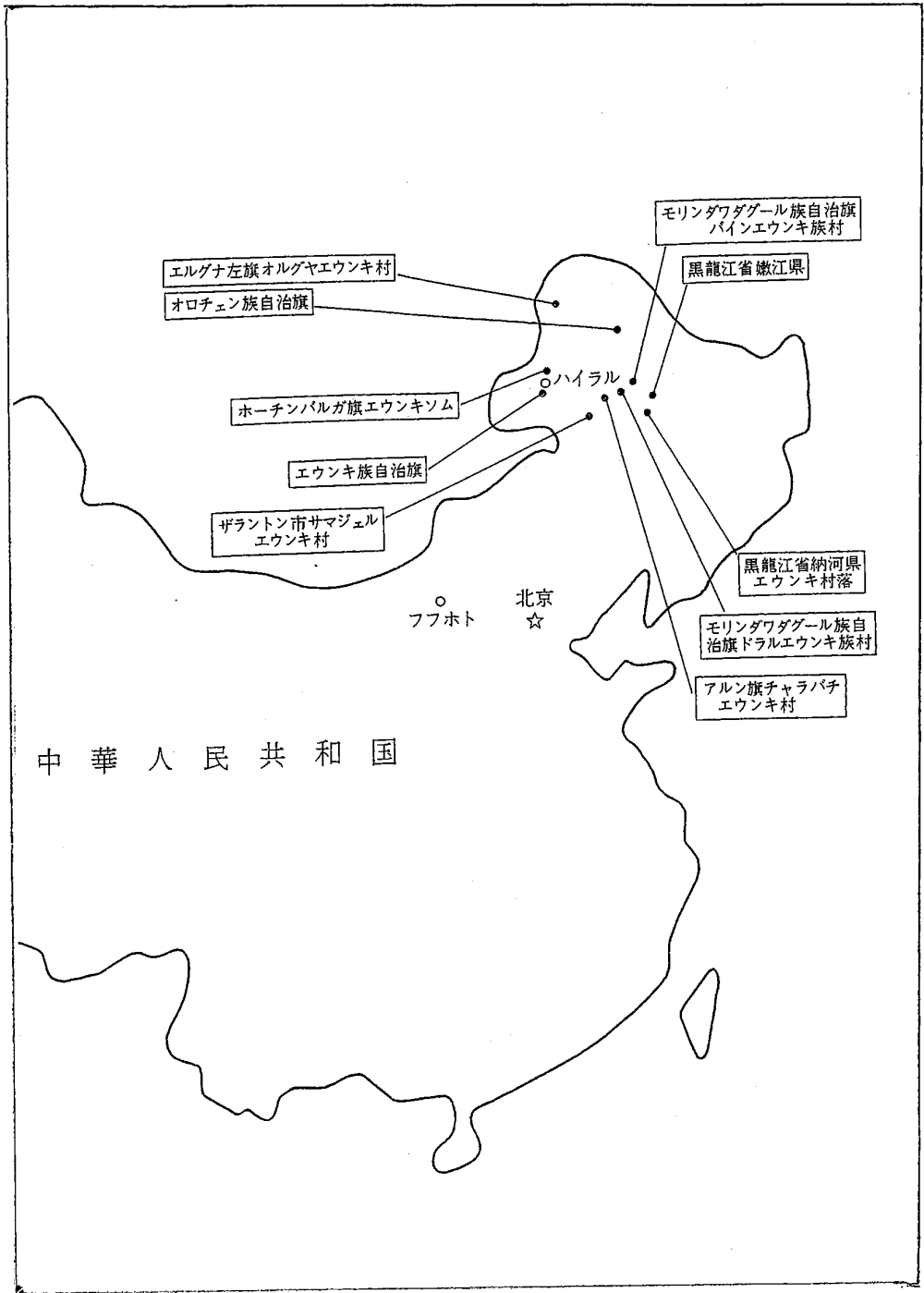
ソロン語は中国東北部の内蒙古自治区北東部ホロンバイル地方及び嫩江流域で話されている(地図参照)。ホロンバイル地方では特に海拉尔(ハイラル)市の南にある伊敏ソム(索木:内モンゴルの行政単位)、輝ソム、及び南屯にソロン族は多く居住している。今回訪れた伊敏ソムでは、ソムの役場に務める方より次のような情報を得ることができた。伊敏ソム全体の人口は約4400人であり、そのうち戸籍を持っているのは三千人ほどである。残りは草原に住んでいるため、正確な人口の把握は難しいという。4400人ほどの全人口のうち、ソロン族は1800人前後、モンゴル族がやはり1800人前後、他は漢族、ダグール族、満族などであるという。ソムはさらにガチャと呼ばれる下位の行政区画に分かれているが、伊敏ソムでは次の4つのガチャにソロン族が多く住んでいるという(朝勒孟氏よりの情報による):ジドウン・ガチャ、ウィットウフン・ガチャ、ビルトゥウ・ガチャ、ホンゴルジン・ガチャ。

中国ではソロン(索倫)族はエウエンキ(鄂温克)族に含まれているため、正確な人口は不明であるが、1982年の統計で1万9千人あまり、1990年の統計で2万6千人あまりであり、このうちの大部分がソロン族と考えられる。1988年の調査ではエウエンキ族の民族語話者数は1万7千人とされている(以上の人口に関する情報に関しては、津曲(1996:178)を参照した)。なお分布や話者人口に関しては朝克(1991)の序文にさらに詳しい記述がある。

中国のエウエンキ(鄂温克)族は三つのグループからなっており、そのうちの最も南のグループがソロンである。より北の二つのグループ(ヤクート・エウエンキ及びツングース・エウエンキと俗称される、地図中ではエルグナ左旗、及びホーチンバルガ旗がそれぞれこれにあたる)は、少なくとも言語学的観点からはロシアに広がるエウエンキ語の方言とみなすべきものであり、中国でオロチョン(鄂倫春)族と呼ばれて別にされているグループもここに属すべきものである。

ソロン族の生業は牧畜で、その文化や生活は多くの面でモンゴル化している。

なおソロン語は無文字言語である。ソロン語のみを話す人はほとんどなく、ソロン族はほとんど皆がモンゴル語、ダグール語、漢語とのバイリンガル、トゥリリンガルである。したがって蒙古文字や漢字、もしくはその両方が書ける者が多い。

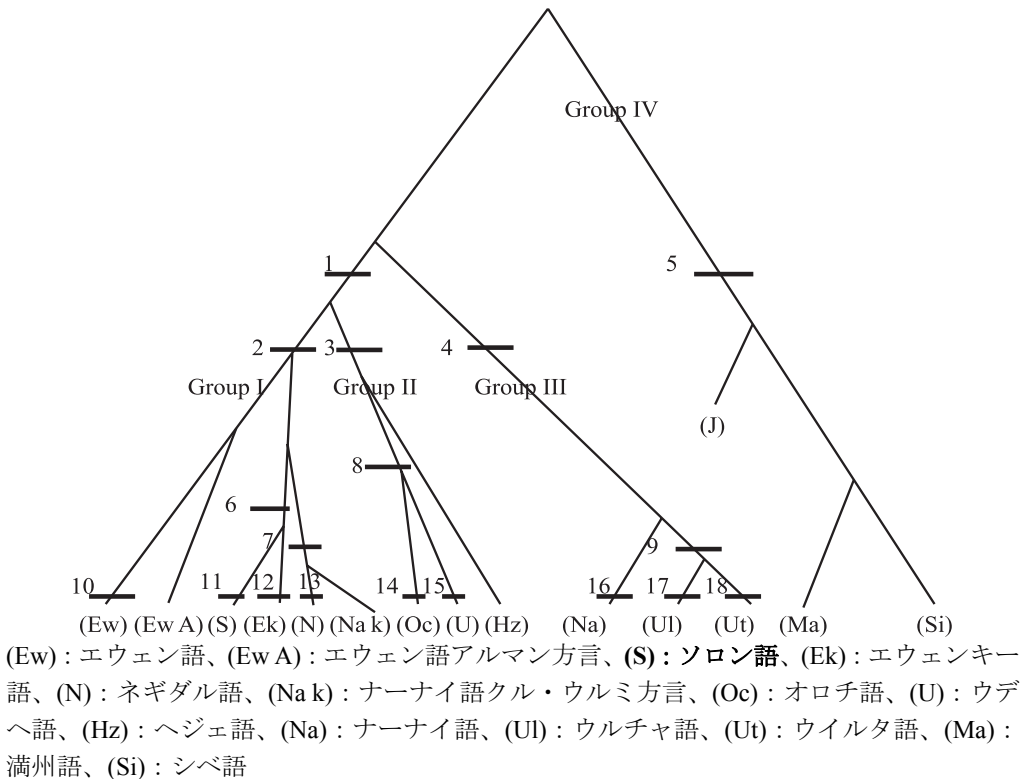


地図1 ソロン族分布図 (含ヤクート・エウエンキ及びツングース・エウエンキ)
[朝克 1991 : viii による]

0.2. 類型及び系統・方言

類型論的にいえば、ソロン語はいわゆる「アルタイ型」言語で、その形態論は膠着的である。語順は Head-final である。すなわち修飾語が被修飾語に常に先行し、基本的には S O V である。格表示をするとともに名詞及び動詞に人称を表示するので、Double Marking の言語といえることができる。語の統合度はそれほど高くない。ツングース諸語全体の類型論的特徴に関しては風間 (2003) も参照されたい。

系統的には、ソロン語はツングース諸語の一つであり、I 群の言語 (Ikegami 1974) に属する。I 群の中でも特にエウエンキー語と近い関係にある。音対応 (特に子音の対応) に基づくツングース諸語間の系統的關係は以下のようなものである。



上記の系統図及びその根拠である音対応に関して、詳しくは、Kazama (2003) を参照されたい。以下では特にソロン語の成立に関して重要な 1., 2., 6., 11 の変化を示しておく。

1. Group I と Group II の言語に起きたと考えられる音変化

p- > x-: (Ek) xokto || (U) xokto || (Na) pokto 「道」

x- > φ -: (Ek) aali || (U) ali || (Na) xaali 「いつ」

si- > φ i-: (Pro. T.) *sirkun || (S) ikkin || (Oc) ikkəi || (Na) sikun 「新しい」

u > i: (Ek) tigdə || (U) tigdə || (Na) tugdə 「雨」

-nd- > -n-: (Ek) ŋinakın || (Oc) inaki || (Na) inda 「犬」

-ŋg- > -ŋ- : (Ek) ŋŋun || (U) ŋŋu || (Na) ŋŋun 「6」

2. Group I の言語にのみ起きたと考えられる音変化

-*rŋ- > -nŋ- : (Pro.T.) *arŋani || (Ek) anŋani || (Oc) aŋani || (Hz) arni || (Na) airŋani 「年」
-ps- > -s- : (Ek) aasin- || (Oc) aapin- || (Na) apsin- 「横になる、寝る」

6. エウエンキー語とソロン語にのみ起きたと考えられる音変化 ((Ek) ではさらに同化)

-ls- > *-lt- > -ld- : (S) **uldə** || (Ek) ullə || (Ul) ulsə 「肉」
-*ns- > *-nt- > -nd- : (Pro.T.) *nansa || (S) **nanda** || (Ek) nanna || (Oc) nasa 「皮」
-ms- > *-mt- > -md- (> -nd- in (S)) : (S) **giranda** || (Ek) giramna || (Ul) giramsa 「骨」

11. ソロン語にのみ起きたと考えられる音変化

様々な二子音連続における逆行同化: (S) **orotto** || (Ek) orokto || (Ut) orokto 「草」
-kl- > -l- : (S) **xulə-** || (Ek) xuklə- 「眠る」
č > s : (S) **saasun** || (Ek) čaasun 「紙」

ソロン語は音声、文法、語彙の全面にわたって、モンゴル語及びダグール語（やはりモンゴル諸語のうちの一つ）の強力な影響を受けてきた。近年は漢語からの影響も大きい。

0.3. 先行研究

ながらくこの言語の唯一の言語学的な記述は Poppe (1931) に限られていた。これは音韻・形態の概略、約 2 千の語彙、若干のテキストよりなる。その後、中国及び日本の研究が出版されるようになってきた。中国の記述には胡・朝克 (1986)、朝克 (1995) などがある。なお朝克氏はソロン族出身の研究者である。

辞書もしくはそれに近いものには、朝克 (1991) があり、4300 強の語彙を集成している。しかし意味分野別になっており、音形から語をさがすことはできない。津曲 (1993) は朝克 (1991) のアルファベット順の索引であり、これにより音形からひくことが可能になった。杜道尔基 (1998) は 17000 語からなるソロン-漢語辞典だが、やはり語彙集の域を出ず、例文はほとんどない。朝克 (1991) は調査票によって作成したため、ソロン族の生業である牧畜に関連した語彙などでも、基本的なものが欠けていることがある。今回収集したテキスト中の語についても、全部両方の辞書で調べてみたものの、見出せないものが多くあった。

朝克・津曲・風間 (1991) は、漢語の例文をもとに朝克氏が日常的な会話文をソロン語に訳したものである。数少ない例文資料の一つではあるが、漢語からの翻訳である点で、あまり自然なソロン語であるとは言えない面がある。朝克・敖嫩・耐登・莫日根布和 (1988) は現地調査に基づく 42 編の民話の集成であり、ソロン語が IPA で表記されていて、貴重な資料である。ただ訳はいわゆるタテ文字のモンゴル語のみなので、やはり利用に難がある。今回の調査で吉特格勒因・陶克騰其其格 (1999) という本が出版されているのを見つけたことができた。これも現地調査に基づくソロンの民話集であるが、残念ながらモンゴル語による翻訳があるのみでソロン語の原文は無い。39 編の民話を集録している。

以上にみるように、テープから書き起こし、言語学的にも正確な分析がなされているようなこの言語のテキスト資料はまだほとんど無いといってよい。十分な文例に基づく包括的な文法記述も今後の大きな課題である。

0.4. 音声・音韻

音素及び音節構造は以下のようである。

子音					母音
p	t	č	k		狭 i ə ø u
b	d	ǰ	g		_____
m	n	ň	ŋ		広 ɪ a o ʊ e ee
	s	š	x		
w		j			音節構造
r	l				(C)V(V)(C)

なお č, ǰ, ŋ, š は IPA での [tʃ, dʒ, ɲ, ʃ] を示す。ここでは 1 音素 1 文字の原則と、体系的な観点からこのような音韻的表記を採用している。/s/ に関しては、この音素の存在を疑問視する先行研究もある。すなわち、[ʃ] は主に /i/ の前に現れるので、/s/ の異音とも考えられる。しかし現在ではモンゴル語からの大量の借用によって /i/ 以外の母音の前にも /s/ が多く生じている。本稿ではこれを別音素とみて記述をすすめる。ただし /i/ の前では /s/ と /s/ の間の対立はないものと考え、/si/ と表記する。

/g/ は母音間もしくは語末で摩擦音化および弱化する。

語末の /n/ はその前の母音の鼻音化として実現するので、[n] ではない。Pope (1931) はやはりそのように表記している。朝克の一連の著作では /ŋ/ を用いているが、音声的に [ŋ] であるわけではない。本稿では上記のように音声的には鼻音化した母音を代表する音素の記号として /n/ を用いる。

/e/ 及び /ee/ は歴史的に /ia/ 等から発展してきたものと考えられるが、ここでは別音素とみることにする。

先行研究が *baj* 「人」のような表記をとっているものに対して、本稿はこれを母音連続とみなす立場をとり、*boi* と表記する。

他のツングース諸語やアルタイ諸言語の多くと同様に、ソロン語には母音調和があり、一語中には別の系列の母音が混在しない。その対立は舌根によるものとも考えられるが、ここでは広狭によるものとしておく。/k/ 及び /g/ は広母音の前後で口蓋垂音として実現する。ただモンゴル語の影響で、第二音節以降の母音は弱化し、曖昧母音化することがあり、母音調和は崩れる傾向にある。

0.5. 文法概略

形容詞、数詞は、単独で用いられる時には名詞同様に曲用し、これらは広く実詞とすることもできる。実詞には格及び人称（所有者を示す）の接辞がこの順でつく。人称接辞は現れないこともある。動詞には派生接辞及び屈折接辞がこの順でつく。派生接辞はヴォイス、アスペクトなどのカテゴリーからなり、屈折接辞は叙法、きれつづき、テンス、主語の人称を示す。きれつづきに関しては形動詞、定動詞、副動詞の三つの形がある。まず形動詞は欧米の伝統的な言語学でいう分詞、日本語学でいう連体形に近い働きを示す動詞形である。名詞を修飾して連体修飾節を形成したり、格などの接辞を取ってそれ自体が名詞的に働くこともある。文末の述語として用いられることも多くあり、テンスも分化してい

る。他方定動詞はもっぱら文末の述語としてのみ使われる形で、直説法の他に命令法をはじめとするいくつかの叙法の形式に分かれている。副動詞は他の述語に連なる形式で、いわゆる連用的な形式である。ツングース諸語の否定は特徴的で、否定動詞という専用の動詞が用いられる。否定動詞自体が活用し、その後ろに否定される動詞がくる。

以下に主な接辞・小辞の一覧を示す（母音調和による異形態は省略し、広母音のものを代表として示した）。無論この表は網羅的なものではなく、今後の先行研究の整理及びテキストの用例の考察によって精密化していくものである。接辞等につけた名称も今後の用例の用法の検討を通して再考していく必要がある。

表中の数字は今回収集したテキスト中に出現する箇所を示したものである。例の多いものについては全出現箇所を示さず、.... etc. とした。etc. のないものは全出現箇所を示している。-φはゼロ・マーカ―だが、出現箇所の欄のφは今回のテキストに用例が見出されなかったことを示す。なおテキスト中では語幹部分が明確であることから、-taan(1-017), -ččak (1-074), -kkee(4-032), -duu-nə(1-037), という接辞をハイフンで切って分析したが、その機能は十分に明らかにすることができなかった。したがってこれらは表に加えていない。

接辞・小辞一覧表

名詞及び形容詞類につく接辞（格-人称の順序で接辞がつく）

・格

主格（～が）	-φ	1-002, 1-003, 1-004 etc.
属格（～の）	-nɪ	3-003, 3-010, 3-010, 3-030, 3-034, 3-035, 3-043, 3-047 etc.
定対格（～を）	-wa/-ba	1-015, 1-015, 1-016, 1-016, 1-017, 1-036, 1-067, 1-067 etc.
不定対格（～を）	-ja/-a/-na/-ɪ	1-013, 1-014, 1-047, 2-007, 2-028, 2-030 etc.
与格（～に）	-du/-dɪ	1-001, 1-001, 1-011, 1-020, 1-024, 1-034, 1-066, 2-002, 2-018 etc.
方向格（～へ）	-tɪɪ/-tɪɪɪ	1-019, 1-040, 1-046, 2-043, 4-006, 4-016
離格（～の中から）	-gɪjɪ/-gɪč	1-049, 4-028, 4-049
処格（～に沿って、～の部分を）	-la/-dula	1-018, 1-063, 2-018, 2-027
経路格（～を通して）	-lɪ/-dɔɪɪ	1-030, 2-028, 2-030, 2-034, 2-035, 3-011 etc.
奪格（～から）	-dɪɪɪ	φ
道具格（～で、～と）	-ʃɪ	1-003, 1-009, 1-024, 1-028, 1-040, 1-053, 2-048, 3-058

・人称

一人称単数	-wi/-bi	4-051 etc.
二人称単数	-si/-či	φ
三人称単数	-nim/-ni	1-003, 1-004, 1-006, 1-009, 1-012, 1-015 etc.
再帰単数	-wi/-bi	1-003, 1-004, 1-007, 1-008 etc.

除外的一人称複数	-mun	φ
包括的一人称複数	-ti	2-015
二人称複数	-sun/-čun	φ
三人称複数	-nim	4-059
再帰複数	-walɪ/-balɪ/-wur(?)	3-036

・その他

複数	-sal	φ
所有「～持ちの」	-si/-či	1-004, 1-005, 1-005, 1-023, 1-047, 1-051, 1-052, 1-055, 1-060, 1-072, 2-004, 2-025, 2-049 etc.
指小	-xan	3-027

動詞につく接辞（派生接辞-屈折接辞の順序をとる、屈折接辞は必須）

屈折接辞

・形動詞

現在	-r (状態動詞では -si, bi-では-iも)	1-002, 1-008, 1-011, 1-013, 1-014, 1-021, 1-034, 1-035, 1-036, 1-047, 2-002, 2-011, 2-012, 2-017, 2-026, 2-046 etc.
過去	-sa/-ča/-kan (状態動詞では -či)	1-009, 1-010, 1-010, 1-014, 1-014, 1-015, 1-015, 1-015, 1-015, 1-018, 1-019, 1-020 etc.

・定動詞

直説法現在	-φ /-ra/-a/-da/-ta	1-004, 1-006, 1-007, 1-007, 1-007, 1-008, 1-009, 1-011, 1-012, 1-013, 1-013, 1-016 etc.
直説法未来	-jaga	1-044
命令法近未来単数	-xa	2-030, 2-030, 3-040, 3-053, 4-013, 4-014, 4-029
命令法近未来複数	-xaldun	φ
命令法遠未来単数	-daawɪ	1-069, 4-036, 4-049, 4-051
命令法遠未来複数	-daawal	φ
命令法丁寧	-gaalar	2-016, 2-018, 3-007, 3-009, 3-037
三人称命令	-gɪn	3-023

・定動詞(直説法)及び一部の副動詞の人称

一人称単数	-u/-w/-mɪ/-m	1-007, 1-009, 1-015, 1-019, 1-059 etc.	除外的一人称複数	-mun	φ
			包括的一人称複数	-tɪ	φ
二人称単数	-ndɪ/-sɪ	3-015, 4-025, 4-032	二人称複数	-ččun	φ
三人称単数	-n/-nɪ	1-002, 1-004, 1-006 etc.	三人称複数	-n/- φ	φ

・副動詞

同時副動詞	-m	1-008, 1-021, 1-034, 1-035, 1-049, 1-050, 1-054, 1-067, 2-020 etc.
先行副動詞	-čči/-či	1-005, 1-007, 1-008, 1-008, 1-009, 1-014, 1-015, 1-017, 1-018 etc.
条件副動詞	-kkɪ + 人称	1-003, 1-004, 1-012, 1-017, 1-034, 1-039, 1-072, 1-073, 2-015 etc.

派生接辞

・ヴォイス

使役態	-xan/-kan-	1-008, 2-031, 2-034, 2-048, 3-036, 3-037, 3-038
相互態	-ldɪ-	2-038, 3-007, 3-009, 3-058
受動態	-wu-/-bu-	1-071, 1-074, 3-059

・アスペクト

継続動作体	-jɪ-	1-007, 1-014, 1-017, 1-018, 1-019, 1-025, 1-027, 1-029, 1-030 etc.
-------	------	--

多回体	-kta-	φ
反動・反復体	-ggi-/-gi-	1-044, 2-042, 2-047, 3-012, 3-012, 3-057, 4-011, 4-029, 4-033
継続状態体	-si-/-či-	1-031, 2-003
趨向「～しに行く」	-naa-	1-013, 1-046, 1-047, 1-055, 1-056, 2-011, 2-0112, 2-016, 2-018, 2-028, 2-030, 3-056, 3-057 etc.

小辞

=ba(1-016, 2-009 etc.), =bəl(4-002), =də(1-065, 3-021 etc.), =ə(3-023, 3-050),
 =gu(1-025, 2-044 etc.)/=gu(1-033, 3-015 etc.), =gulə(1-031, 1-031, 1-033), =isi(1-024),
 =kat(1-006)/=kət(3-034), =ki(2-049), =ku(1-013), =kun(2-032), =l(1-005, 1-030 etc.),
 =m(3-017), =na(1-051, 4-055 etc.)/=nə(1-036, 3-046 etc.), =si(1-065, 2-021 etc.)
 /=si(1-047, 1-055 etc.), =sitə(1-003, 1-014 etc.), =tə(4-003), =wi(3-010), =xə(4-010),
 =xəd(3-034), =xi(4-023), =xin(4-037)/=xin(3-041, 3-042 etc.)

0.6. 言語文化関連サイト

ソロン語に限らず、ツングース諸語全般に関して参照できるサイトは現在のところ皆無である。

1. 調査及びコーパス作成の概要

今回書き起こしたテキストには2種類ある。

一つは筆者が2004年夏(8/13~15)に調査した際に録音してきたものであり、これについてまず説明する。8/13は伊敏ソムまで行って調査したが断片的な談話が得られたのみで、十分な成果は得られなかった。8/14及び15は南屯にて調査した。14日には**borto**氏(1934年、輝ソムのオランバルフ・ガチャ生まれ、言語形成期もそこで過ごす)より民話を録音することができた(コーパス1)。15日には**surungwa**氏(1945年、輝ソムのシュフイトウ・ガチャ生まれ、言語形成期もそこで過ごす)より民話を録音した(コーパス2)。その後数日間の海拉尔市滞在中に現地の方の協力を得てこれらを書き起こし、意味を記述した。

もう一つは現在(2005年)千葉大学博士後期課程在学中のチョクチャ氏が2003年3/2に伊敏ソムのホンゴルジ・ガチャで録音したものを一部譲り受け、これを書き起こしたものである。語り手は**səsərmə**氏(1932年、伊敏ソムのホンゴルジ・ガチャ生まれ、言語形成期もそこで過ごす)である。書き起こし及び意味の解釈にはドエンリ氏(2005年現在東京外国語大学研究生)の協力を得た。なお氏は祖母に育てられたためにこの言語をよく解するが、弟や妹の世代ではほとんど漢語(もしくはモンゴル語)しか話さないという。この言語の危機的状況を物語るものであり、その記録が急務であることを示している。

2. テキストの分析

2.1. 文法要素に関して

ここでは、今回のテキストで観察された点、及び他のツングース諸語との比較から問題になる点について、先の接辞・小辞一覧表の順序に従ってコメントを加えることにする。

2.1.1. 格

属格は所有構造で必ずしも常に使われるわけではないようだ。いつ属格が現れ、いつ現れないかについては今後の研究が必要である。

-iのような形を不定対格として取り扱ったが、この点については検討を要する。文脈からは不定対格が現れると考えられるところに、このような要素が現れている。先行研究は不定対格の形を-ja/-aのように記述しているが、このような形での例は現れなかった。

場所を示す格についてみると、経路格がかなり使われることがわかる。奪格と離格はその意味の違いや使い分けが問題であるが、奪格らしい明確な例は得られなかった。

方向格に関して、3-005 **tuləə-sixi**「外へ」に1例のみ見出されるが、場所名詞には-tixi/-txiでなく-sixiがつくことが確認できる。

なお格ではないが、主題を示す要素として **bi-kki-wi**「～であれば、～は」がさかんに用いられていることがわかる。モンゴル語で **bol** (< **bol-bol**「～なら-ば」)が多用されることからの影響が考えられる。

2.1.2. 人称

再帰複数と思われる箇所に **-wur**という形式が観察されたが、はたしてこれが再帰複数であるかには疑問が残る。2-001 **asi ədi juuri, amdi-r-du-wi**, 「妻と夫が二人、暮している時

に」にみられるように、複数主語や複数所有者でも単数で受ける場合が多くあると考えられる。今回のテキストで複数の所有人称接辞の例はあまり得ることができなかったが、上記のようなことも原因に考えておく必要がある。今回名詞の複数接辞の例が得られなかったのもこれとの関連が考えられる。

2.1.3. 形動詞

bi- の現在形動詞形には bi-si- と bi-i- の種類が現れている。この点に関してはなお検討の余地がある。gun- 「言う」にも gun-čə と guŋ-kən の二つの形が観察され、本稿ではこれを共に形動詞過去形とした。杜道尔基 (1998) はこれを「是」(～という)と訳し、引用符に近いものとみているようだ。たしかに 4-003, 4-031, 4-046 にみられるように引用のマーカ―として機能している例もみられるが、他方で 2-030, 3-009 のようにはっきりと「言う」の意の動詞として機能している例もみられる。「言う」に由来する引用のマーカ―はモンゴル語の影響によって成立したことが考えられる (モンゴル語の引用のマーカ― geŋ は ge- 「言う」より)。-xan/-kin のような形の過去の形動詞形は III 群のツングース諸語 (ナーナイ語、ウルチャ語、ウイльта語) にみられるが (ただし子音終わりには -kin がつく)、それとこの guŋ-kən の -kən の関係については今後考えていく必要がある。

2.1.4. 定動詞

直説法現在に関して、異形態の出現する条件は次のとおりである。すなわち、母音語幹には -ra, n 終わりの語幹には -a, n 以外の子音語幹及び不規則動詞では -da, -ta となる。

命令法の形はエウエンキー語などの形との比較から単数形は -xa < -xal, 複数形は -xaldun < -xalsun のような祖形がたてられる。この言語ではソノラント + s はソノラント + d に変化したと考えられるので、例えば定動詞の二人称形 -ndɪ にも -ndɪ < -nsɪ のような発展を想定することができる。

命令法遠未来の形式はエウエンキー語及びネギダル語のそれとよく対応する。エウエン語でこれらと対応するのは、先行研究でいう動名詞形と考えられるが、これには全人称が揃っている。ソロン語、エウエンキー語及びネギダル語の命令法遠未来の形式は、このうち再帰人称単複の形のみが残って固定したものと考えられる。

命令法丁寧の形はモンゴル語から入ったものであろう。

2.1.5. 副動詞

同時副動詞及び条件副動詞の形は他の I 群の言語とよく対応する (条件副動詞は -kku < -raki と変化してきたものであろう)。他方先行副動詞は他の言語のどのような形式と対応するのか筆者にはまだ明らかでない。

2.1.6. ヴォイス

受動態としたものはもっぱら mana- 「尽きる」についての例のみであり、これに関してはさらなる検証を必要とする。

2.1.7. アスペクト

趨向 -naa- はアスペクトと呼ぶには問題があるが、便宜上ここに入れたものである。

2.1.8. 小辞

小辞についてはまだよくわからない点が多い。例が一つのものについては、その存在についてもさらに検証が必要である。機能については =gu/=gu が疑問を示すこと以外はまだまだよくわからない。=ba は漢語から入ったものかもしれない。今回は独立した語として扱ったが、sinjə 「～のだ」も独立性が弱く、小辞とすべきものかもしれない。

2.2. 語彙に関して

1-002 ərəxtəi 「男」、1-002 əməxtəi 「女」、1-003 xomxoi 「ケチ」、1-016 xamaa 「関係」、2-041 jawdala 「事」、2-041 oljoo 「利益」、4-003 doo 「川」、4-018 baruun 「西」、などはモンゴル語からの借用語であると考えられる。筆者のモンゴル語の知識が不十分であるので、モンゴル語からの借用語はさらにたくさんあるものと考えられる。

3-013 jəəjəə 「姉」は漢語からの借用語と考えられる。

3. コーパス

3-1. コーパス 1

2004年8月14日、南屯にて borto氏より録音

1-001

ər əwəŋki-du əmun, naagottı arttı ərin-du.

このソロンには一人の、昔に、過去の時に、

1-002

əmun ərəxtəi əməxtəi juuri bi-si-n. ətxən saddı juuri.

一人の男と女の二人がいた。おじいさんとおばあさんの二人だ。

1-003

ətxən-nin daanči xomxoi, xoddox sanaa=sitə, əwəŋki-ji bi-kki-wi

おじいさんはひどくケチで、ケチな性格で、ソロン語であれば、

1-004

xoddox gun-ə-n. əməxtəi-nin bi-kki-wi mandı ar sanaa-sı bəi.

「ケチ」と言う。妻の方と いえば とても良い性格の人だ。

1-005

too-čči=l əmu=l xurči unugu-si. əm xəxə unugu-si.

そうして一頭の乳牛持ちだ。一頭の雌牛持ちだ。

1-006

ajl aasın, awu-nıŋ=kat ajl aasın. ittəə-rə-n ər ətxən.

仕事は無い、どちらも仕事が無い。どうしたらいいか、この老人は。

1-007

əsi umınaa-ji-ra-n. əsi unugum-bi waa-čči jıt-tə-m gun-ə-n. saddı

今痩せかけた。今自分の牛を殺して食べよう、と言う。妻に

1-008

ə-si-n jik-kən-ə, saddı-wı tuləə asa-m bi-čči. unugum-bi waa-čči,

食べさせない、自分の妻を外に追い出しておいて。自分の牛を殺して、

1-009

waa-sa. too-čči nanda-ji-nı, saddı (言い間違い) əsi əmukkən jıt-tə-m gun-kən.

殺した。それからその皮で、おじいさんは今一人で食べると言った。

1-010

ukkə-wi uji-sə. tar ukkə-wi uji-sə,

自分の所の戸を縛りつけた。その戸を縛った、

1-011

saddı-wı ukkə-di-wi ə-si-n juu-rə,

自分の妻が戸から入らないように、

1-012

uldi-wi əmukkəəl jıt-tə-n. gə, saddı-nın əri naagu bi-kki-wi,

肉を一人で食べた。さあ、彼の妻はこうして時が経てば、

1-013

inig baldi-ra-n=ku, inig baldi-r bogo-ı gələə-nəə-rə-n. oondi
日々を どう暮らすか、日々を 暮らす 場所を 探しに行く。 どのような、

1-014

oondi=l bogo-i gələə-ji-r=sitə. əttəə-čči ul-čə ul-čə. aa,
どのような 場所を 探しに行ったんだろうか。そんな風に 行った、行った、ああ、

1-015

ə-sə, bii boloo janji-s-u. dərəm-bə-n nuuda-čči buu-sə.
違う、私は 間違っ て話して しまった。乳房を 投げて 与えた (おじいさんは)。

1-016

unugu-ni dərəm-bə-ni. dərəm-bə saa-ra=ba. gəə, xamaa aasm.
牛の 乳房を。 乳房を 知っているかい? ああ、じゃあ問題 ない。

1-017

tər dərəm-bə-n nuuda-čči buu-čči=l əri dərəm-bi jawa-taan ul-ji-rə-n.
その 乳房を 投げて 与えた、この 乳房を 持って 行った。

1-018

too-čči dərəm-bi əmun jolo-lo-n nəə-sə. too-čči sixən-ji-rə-n.
それから 自分のその乳房を 一つの 石の上に 置いた。それから 小便をした。

1-019

soŋo-ji-ra-n. jolo-tıxı, jolo uxun dərəm-bi ga-da-m gun-čə,
泣いた。 石へ、 石と 牛の 乳房を 取ると 言った、

1-020

jolo-du lattu-čči nəə-sə.
石に くっつけて 置いた。

1-021

gə, əsi ittəə-rə. ga-m ə-si-n ətə-rə. tajjaa əttəə-čči saga-sa.
さあ 今 どうするのか。 取ることが できない。 それを このように 搾り出した。

1-022

gə, aı sanaa-nı əduuji uji-rə=sitə. saga-čči uxun juu-sə.
さあ、良い 心が ここに 現れたのだ。 搾ると 牛乳が 出てきた。

1-023

baraan uxun juu-sə. ər əməxtəi-nin aı sanaa-sı bəi,
たくさんの 牛乳が 出てきた。 この 女の人は 良い 心の 人だ、

1-024

ajl-du mandı=ırsı bəi. uxun-ji-wi aačči, ərmui ga-sa.
仕事も よくできる 人だ。 牛乳で チーズを、クリーム (奶皮子) を 作った。

1-025

əŋgəerəə-ji-rə-n. unuguli jaksı=gu. aačči ərmui ga-sa.
製造した。 物語は こんな風だ。 チーズと クリームを 採った。

1-026

aja əsi baraan oo-so. baraan oo-so əsi ittə-rə-n.
よし、今 たくさん できた。たくさん できたら 今 どうしよう。

1-027

əsi ətəkəəm-bi j̄oon-ji-ra-n ər bəi. aja ətəkəəm-bi,
今 自分のおじいさんのことを 思い出した、この人は。ああ、私のおじいさんは、

1-028

tari əmun unugu-nin uldə-ji, ooxi j̄it-tə-n.
あの 一頭の 牛の 肉で、 いつまで 食べていられようか。

1-029

əsi, ətəkəəm-bi isi-nəə-m nən-čə. ukkə-nin ugii-čči bi-ji-rə-n,
今、自分の夫を 見に行つて 行った。戸は 縛られた ままだった。

1-030

naan bi-ji-rə-n. too-čči=l əmun, aačči nuuda-sa ərxe-li.
なおも そのままだ。それから 一切れの、チーズを 投げ入れた、ゲルの天窓の穴から。

1-031

”bəkke-nin buu-sə, jum=gulə bogo-nin buu-sə jum=gulə,” adda-čı-r ga-ji-ra-n.
「天の神が くれたか、それとも 地の神が くれたか、」と 喜んで 取つた。

1-032

ərumui nuuda-sa mətər tattuu gun-ji-rə-n aačči nuuda-čči=l,
クリームを 投げて 与えると、再び そんな風に 言っている、チーズを 投げると、

1-033

”bəkke-ni buu-sə jum=gu, bogo-ni buu-sə jum=gulə,” gun-ji-rə-n.
「天の神が くれたんだろうか、地の神が くれたんだろうか、」と 言っている。

1-034

gə, taja ətəgi, əsi bi-kki-wi ukkə-wi naŋı-m buu-r oo-so, saddı-du.
さあ、こんな風、こんな風だ、今 すると、戸を 開くことと なった、妻に。

1-035

ukkə-wi naŋı-m buu-r oo-so, xarın saddı-nı, gə. ənnəgən oo-so.
戸を 開いて やることと なった、元の 妻がいる、さあ。こんな風になった。

1-036

j̄it-tə-r əmbuu-sə, əsi, əsi əjə-wə-ni j̄ič-čə ərmu=nə, xomxoi ədəsi.
食べる物を持って来た、今 今、これを 食べた、これを、貪つて食つた、こいつは。

1-037

jaawur saddı-wı aarı-ra-n. gə, saddı-nım,
ちゃんと 妻と 暮らすようになった。さあ、妻と

1-038

aarı-ča saddı-nım əmbuu-čči ul-čə.
暮らした、妻を 連れて 行った。

1-039

gə, minii amdıl bi-kki-wi ənnəgən, bəi uriilən oo-so,
さあ、私の生活とえば、こんな風だ、彼らはまた家族と なった、

1-040

tarı jolo-txı-wı uxum-bı baxa-ra-n, uxun-ji-wı aaççı ərumui jıt-tə-n.
その石から牛乳を得る、牛乳でチーズとクリームを食べる。

1-041

əjə, xomxoi ədəsi, aaççı ərmui jiç-çi mana-ççı nəə-sə.
ああ、貪り食った、こいつは。チーズとクリームを食べて、尽きて しまった。

1-042

too-ççı daxın, ər saddı tərü-ççı ul-çə-ni amıdarı-n.
それから今度、この妻が薪を採りに行った その後で、

1-043

dərum-bə-ni dəp taan-çı şar-çı jiç-çə, aasın oo-so.
乳房をブチャッと力いっぱい破いて、焼いて食ってしまった。無くなった。

1-044

gə, saddı əm-gi-sə oono-jojo,
さあ、妻は戻って来たがもはやどうしようもない、

1-045

ər ətxən ənnəgən oo-so jaxa.
このおじいさんがこんな風にしたものを。

1-046

gə, əsi daxın əntə bogo-txı amdıl gələə-nəə-rə mətər.
さあ、今さらに別の場所へ暮らしに、場所を探しに行った、またも。

1-047

inig baldı-r bogo-ı gələə-nəə-ji-rə-n. gələə-sə, gələə-sə, aı sanaa-sı bəi=si,
日々暮らす場所を探しに行く。探した、探した、良い心を持つ人だ、

1-048

jaawur əmui jum taalara. gəntəxə=l əmun
どうしたらこんな良い人に会えるだろうか。突然、あるものが、

1-049

ugii-giiji, əmui jəəm ıruu-sa. too-ççı jawa-m iç-çə,
天から、1つの物がぶら下がっている。それで手にとって見た、

1-050

xonni ujiç ənəgən jəəm, too-ççı jawa-m iç-çə, digən unaxa-nı
羊の腸の、このような物だ、それから手にとって見た、4つの指分の

1-051

xənjəə-si, ulxu=na ə-si-n buu-rə, abul=na ə-si-n buu-rə.
脂の厚さがある、多くも(天は)くれないし、少なくもくれないのだ(適量だ)。

1-052

əttuu taan-čī. gə, saddi mətər ar sanaa-sı bəi,
こんな風にして引張って取った。さあ、妻は また 良い 心を持つ 人だ、

1-053

əsi mətər ətxəm-bi joon-ji-ra-n. gə digin unaxan-ji-wi
今 また 自分の夫を 思い出した。 さあ、4つの 指分だけ、

1-054

xənjəələ-m xənjəələ-m, oru-ji-ra-n,
測って、 測って、 蓄積して取っていく、

1-055

əsi ətxəm-bi isi-nəə-rə-n ba-sa, ar sanaa-sı bəi=si. ətxəm-bi,
今 おじいさんを見に行く事となった、良い 心を持つ 人だ。 自分のおじいさんを。

1-056

əsi baraan oru-čči əmbuu-čči ətxəm-bi isi-nəə-sə. ətxən,
今 たくさん たまって、持って行って、おじいさんを見に行った。おじいさんは、

1-057

adda-sa mətər. gə, əsi ənə... xamuksanaa tajjaa xokko jič-či nəə-sə.
喜んだ、再び。 さあ今、この ドケチは その 全部を 食べて しまった。

1-058

əsi saddi-wi aaŋi-ra-n. saddi-wi aaŋi-di-ji, ittəə-rə-n,
今 自分の妻と 暮らした。 自分の妻を連れている、他にどうすることができよう。

1-059

saddi-wi ə-si-m aıxan-a, naan ə-si-n oo-do,
おばあさんは 連れて行かなければ、それも ダメだ、

1-060

naan əmun sanaaa aı-sı bəi. gə ətxən
さらに一人の心の 良い 人だ。 さあ、おじいさんは

1-061

saddi-wi aaŋi-čči ul-čə, əbxee əmun əmun mətər
自分のおばあさんを 連れて 遊牧して行った、おそらく 一つの、一つの また

1-062

əmun bujagan oo-do-n bi-ji-rə-n. uriilən oo-do-n bi-ji-rə-n.
一つの 家族と なって 暮らしている。 家族と なって いる。

1-063

too-čči i-lə bi-si-n jum aaŋi-čči mətər əjjəə. tuləə juu-čči ič-čə,
それから どこに しよう とも 連れて行く、また、このように。 外へ 出て、見ると、

1-064

aıja talaara əmun jum bi-si-n. saddi mətər, tərü-čči ul-čə-w.
あれあれ、遠くに ある 物がある。 妻は また。 薪を採りに 行った。

1-065

təru-čči=də ul-čə-ni amıdarın, oijo xamuksanaa=sı,
薪を採りに 行った 後で、 あれあれ このドケチは、

1-066

nooguu suujıgı gun-čə jəəm bi-sə. tajaa-nı oron-du-nı tutigəə-čči,
昔は 羊の髄骨と 言った 物 だったが。それを、 上に よじ登って行って、

1-067

əsi taja-wa suttu-wə ga-da-n. urjixəwə taa-m taa-m
今 その 全部を 取って来た。休むことなく 引っ張って 引っ張って、

1-068

oktu okkur taa-cči=l okkur.
自分の体に 巻きつけていった、引っ張って 巻きつけた。

1-069

too-čči baraan ejiqəwə baraan əmbuu-dəəwi
それから たくさんの、 たくさん 持って来ようとして、

1-070

tajjaa-nı pəs ətkən-čə. ətxən bu-čči nəə-sə.
そんな風に プツツリと 切れた。 おじいさんは 死んで しまった。

1-071

gə, əttəə-čči unugul mana-wu-sa. əttəə-čči inig baldı-sa.
さあ、こんな風に 民話は 尽きた。 こうして (おばあさんは) 日々を 暮らした。

1-072

əjjəə unugul. ər bi-kki xomxoi, əm-ni bi-kki xomxoi sanaa-sı,
こんな 話だ。 こいつと きたら 食欲で、 一人は ケチな 性格で、

1-073

əm-ni bi-kki ar sanaa-sı gun-čə bəi irxən-čə jaxa.
もう一人は 良い 性格だと言っていた、 人は そう語っていたものだ。

1-074

əttəə-čči unugul mana-wu-ččak. oo-so.
こんな風で 民話は 尽きた。 終わり。

3-2. コーパス 2

2004年8月15日、南屯にて surungwa氏より録音

2-001

arke sag-du əmun, ası ədi juuri bi-sə gun-ə. ası ədi juuri,
昔の時に ある、妻と夫二人がいたという。妻と夫が二人、

2-002

amdi-r-du-wı, ədi-nin bikki, sırkan, ajl əm ə-si-ni ətə-r gun-ə.
暮している時に、夫は怠け者で、仕事をすることができないという。

2-003

jəəmə-wə-ni ə-si-n ombu-r. sırkan, inəggu xuləə-si-rə-n.
どんな物事もしてくれない。怠け者だ、毎日横になっている。

2-004

inuggu aasın-a-n. ası-nın bi-kki-wi ajl-çı bəi. ajl aji oo-ro-n.
毎日寝ている。その妻は、働き者の人だ。仕事を良くする。

2-005

too-čči, ası-nın ajl oo-ro-n, əmxəəxən bəi-ni ajl oo-so,
それから、妻が仕事をするのだが、一人きりの人が仕事をしたら、

2-006

uxun, amdi-r-du-n mandı. ə-si-n ısırdı-r.
何だ、その生活は困難だ。力が足りない。

2-007

too-čči, ər ası-nın əmun, agga-ı boč-čo gun-ə-n,
それから、この妻は何か方法を考えるという、

2-008

əmun uxar boč-čo=sitə. badun bak-ča gun-ə-n.
一つのやり方を考えるのではないか。ある考えを得たという。

2-009

tar, ilə-sə ərum, ərum saandı=ba, ilə-sə ərum.
あの、煮えたクリーム(牛乳を煮た上澄み)、煮えたクリーム、

2-010

ilə-sə ərumui=ba, xonni gudug bi-si-n=jəə. xonni gudug-du-n
煮えたクリームなのだが、羊の内臓があるのだ、羊の内臓の中に

2-011

təwə-čči, tajaa bi-i=ba, bogo-du nuuda-naa-sa gun-ə-n.
入れて、このようなのを、外のどこかある場所に捨てておいたという。

2-012

əjjə ası-nı, too-čči ası-nın tajaa bi-i bogo-du nuuda-naa-čči,
この妻は、それから妻はそのような場所に捨てて行ってから、

2-013

ərxətəi-wi, tmaasm əəddə ərxətəi-wi juu-čči,
夫の所へ、 次の日の 朝早くに、自分の夫を 起こして、

2-014

’gə, əsi sii əttuu inəggu aasm-čči ə-si o-do.
「さあ、今 あなたは こんな風に 毎日 寝ていては ダメだ。

2-015

ənni inəggu aasɨ-kɨ miti ittu amdɨ-ra-tɨ,
こんな風に 毎日 寝ていたら 私たちは どうやって生活するのか、

2-016

too-čči juuri xasɨŋkuɨ tɾaw-naa-gaalɨ, xasɨŋkuɨ,
これから 二人で、鍋を洗うブラシにする草を 拾いに行きましょう、ブラシ用の草を、

2-017

iixə xasɨa-r xasɨŋku, xasɨŋku bi-si-n
大きな鍋を 擦るための ブラシを、ブラシになる草があるわ、

2-018

tara bogo-du, bogo-du. ta-la xasɨŋku tɾaw-naa-gaalɨ,
その 場所に、外に。 そこに ブラシ用の草を 拾いに行きましょう、

2-019

naa bogo-du turuŋkui iitəxəi magadasɨ guŋ-kən,
さらにそこには ああかもしれない という、

2-020

uxun uŋigəd baxa-m ətərgii guŋ-kən.
何か（得られなくてもきっと）別の物が 得られる だろう という。

2-021

xasɨŋkuɨ oo-do-n, orotto=sɨ oo-do-n, ənnəgən juu-m
ブラシ用の草でも 見つければ、草でも 見つければ、こんな風に早く 起きて

2-022

tɾaw-kki-wɨ, naa, jułəsixi orotto bi-kki-wi. ɨla-m oo-do-n.
拾ったら、さらに 前へ、 草 なら 火をおこすことも できる。

2-023

xasɨŋku bi-kki-wi, iixə jəəxəi xasɨa-m oo-do-n.
ブラシ用の草 なら、 鍋 なんかを 洗うことが できる。

2-024

too-čči ərxətəi-wi aɨxan-čči ul-čə, bogo-du aɨxan-čči ul-čə.
それから 自分の夫を 連れて 行った、あの場所へ、連れて 行った。

2-025

gə, bogo təniiłə-sə=sitə, toočči gudugə-si,
さあ、その場所に 着いた、それから、羊の内臓に入った

2-026

ərumui bi-i bi-kki-wi, xonnı gudugə-du təwə-sə ilə-sə ərum bi-kki-wi
クリームがあるのは、羊の内臓に 入れた 煮えたクリームは、

2-027

tar boi, tar bogo-du nuuda-naa-sa=sitə, ori orotto-nı doo-lo-nı,
その人があの場所に 捨てに行ってきたのだ、夜のうちに 草の 中に、

2-028

bogo-du nuuda-naa-sa. too-čči məəni bi-kki-wi, ə-li orotto-ı tıaw-naa-kki,
その場所に 捨てた。それから 自分は、こっちで 草を 拾いに行くと、

2-029

too-čči a uxom-bı, uxom-bı bi-kki-wi, ədi-wi bi-kki-wi,
それから 何だっけ、何だっけ、自分の夫は、

2-030

sii ta-lı tıaw-naa-xa, xasıaŋku-ı tıaw-naa-xa, guŋ-kə-ni,
あなたは あっちで 拾え、と、 ブラシ用の草を 拾いに行け、と言った。

2-031

ədi-wi uli-xən-čə gun-ə-n. tajjaa əməxtə-wi,
自分の夫を行かせた、という。その妻と、

2-032

juuri ul-ji-rə-n=kun bogo ul-ji-rən,
二人は 歩いて行くよ、その場所を 歩いている、

2-033

təggu ul-ji-rə-n. too-čči jaag tarı gudugə-si ərmui nəə-sə,
道を 歩いている。それから ちょうど あの 内臓に入った クリームを 置いた、

2-034

tajjaa bogo-lı bi-kki tarı, ədi-wi nənə-xən-čə.
その場所には、その、自分の夫を行かせた。

2-035

ər ası, too-čči məəni bi-kki-wi əntə bogo-lı ul-ji-rə-n
この妻は、それから 自分は 別の場所に 沿って 行っている、

2-036

xasıaŋku-ı tıawul imuu,
ブラシ用の草を 拾ったり して、

2-037

oottı tıawul imuu ul-ji-rə-n, too-čči tarı, ədi-ni jaag tarı,
草を 拾ったり して、歩いている、それから その、夫は ちょうど その、

2-038

gudugə-ji, gudugə-si ərumui, ta-du daarı-ldı-sa xotariga, too-čči
内臓、内臓に入った クリームに、そこで ぶつかったのだろう、それから

2-039

gudugə-si ərumui bak-čɪ tarɪ, ədi-ni bi-kki-wi addi-sa gun-ə-n.
内臓に入ったクリームを見つけた、その、夫は喜んだという、

2-040

''a əsi bi-kki-wi əttuu uli-rə-n, orotɪ tɪawɪ-ra-n, xasiŋku-ɪ tɪawɪ-ra-n,
「ああ、今はこのように、歩くと、草を拾うと、ブラシの草を拾うと、

2-041

əttuu uli-rə-n, aɪ jawdala. olʃoo baxa-r=sitə, olʃoo,
こんな風に歩いていると、良い事があるなあ、利益があがるなあ、得が、

2-042

gudugə-si ərmui bak-sa,'' addi-m əm-gi-sə gun-ə-n.
内臓入りのクリームを得たよ、」と喜んで戻って来たという。

2-043

gə, too-ččɪ, a asi-tɪxi-wɪ gun-ʃi-rə-n gun-ə-n,
さあ、それから自分の妻へ言っているという、

2-044

''gə əsi bii tattuu aʃɪl oo-mɪ, əŋ xasiŋku-ɪ tɪaw-mɪ=gu,
「さあ今私はあんな風に仕事をするよ、ブラシの草を拾ったりして、

2-045

orotɪ tɪaw-mɪ=gu, a amon pɪltalɪ-mɪ=gu, bii aʃɪl oo-mɪ,
草を拾ったりして、牛の糞を燃やしたりして、私は仕事をする、

2-046

əsi too-kki-wɪ jəməwə bax-mɪ. gə, too-ččɪ tarɪ gudugə-si ərmui bi-i,
今そうすれば物を得る。さあ、それからあの内臓入りクリームがあるのを

2-047

xəmli-ččɪ=l addi-m əmə-gi-ʃi-rə-n gun-ə-n, too-ččɪ tarɪ asi,
抱きかかえて喜んで戻ってきたという、そうしてその妻は、

2-048

agga-ʃi oo-ččɪ tar, ədi-ni bi-kki-wi, aʃɪl oo-xo-mɪ,
策略を用いて、その彼女の夫には仕事をさせて、

2-049

amdalɪ bi-kki aɪ-sɪ buu-sə gun-ə-n. too-ččɪ=kɪ ʃuuri,
彼らの生活は良くなったという。それから二人で、

2-050

nandaxan-ʃɪ inčuu baldɪ-ča gun-ə-n. oti-sa.
良く暮したという。終わり。

3-3. コーパス 3

2003年3月2日、伊敏ソム ホンゴルジ・ガチャにて səsərmə氏より録音

3-001

ʃəxəi məggən gun-čə əmun məggən bi-sə gun-ə-n.
ジューファイ・ムグン という 一人の ムグン (男の主人公) がいた という。

3-002

too-čči ulil-du-wi təgə-rə-n, naɣnaa-si-ʃi. too-čči əməktə-ji uxun-di-wi,
だが あそこに 住んでいる、お祈りをして。それから 妻が、 じゃなかった、

3-003

ʃəxəi məggən-nii əxi-nin, ɣuɣ-kən, bi-si-n gun-ə-n.
ジューファイ・ムグンの 姉が、 という、 いる、 という。

3-004

əxi-nin nəxun xuxi-nin ɣuɣ-kən bi-si-n.
姉と、 弟の 妻とが、 という、 いる。

3-005

too-čči ʃəxəi məggən tulə-sixi uli-ččə=l bi-si-n. aɣnaa-čči=l uli-rə-n.
それから ジューファイ・ムグンは 外へ でかけている。 狩りをして行く。

3-006

gəntəxən ul-čə-nin amɪdaa-du-n, nəxun xuxi-nin ”əxim-bi,”
急にある時、彼が行った その後で、 弟の 妻が、「お義姉さん、」と

3-007

gun-čə gun-ə-n. ”juurii ənəltən ʃoldo-ldi-m uɣii-gəələi,” ɣun-čə.
言った という。「私たち二人で 石を投げて 遊びましょう、」と 言った。

3-008

too-čči=xin, too-čči nəxu xuxi-nin, əxi-nin gun-čə gun-ə-n,
それから、 それから 弟の 妻は、 姉は 言った という、

3-009

”oo-do-n, ʃoldo-ldi-gaalai,” ɣuɣ-kən, too-čči ʃoldo-čči,
「いいわ、投げて、」と 言った、 それから 投げて、

3-010

nəxun xuxi-nii=wi, əxin-nii amma-du-n xol-do ʃoldo-čči nə-sə ɣun-ə-n.
弟の 妻は、 義姉の 口の 奥へ 投げて しまった という。

3-011

too-čči əxi-nin aasm oo-so ɣun-ə-n. too-duli xələdee xaan,
それで 姉は 亡く なった という。そこへ、

3-012

ʃəxəi məggən əmə-ggi-sə ɣun-ə-n. əmə-ggi-čči,
ジューファイ・ムグンが 戻って来た という。 戻って来て、

3-013

”jəjəə ittu aasm oo-so,” gun-ə-n.

「姉さんは どうして 亡く なったのか、」と 言う。

3-014

”ittu=l aasm ooso sinjə, siŋkə-čə sinjə,” gun-čə gun-ə-n,

「どうしてか、亡く なったん でしょう、病気じゃないか、」と 言った という、

3-015

”gəə, toosoo jarm ittəe-ndi=gu,”

「ああ、それ なら どうすることができよう、」

3-016

ur-du, aŋnaa-m oo-m uli-ji-sə bəi=si, ur-du juu-m bi-čči

森に 狩りに行ったりして、行った 人は、森へ 出かけていたなら、

3-017

əmun juur bogo-ı baxa-čči=m bogo-ı jawa-čči əm-sə gun-ə-n.

一、二頭の 鹿を 得て、(生きたまま) 鹿を 捕らえて 帰って来た という。

3-018

too-čči, taalbal uli-čči=l bi-čči,

それから、そんな風に 行って来た のだ、

3-019

əmun juur, əmun paalı oo-so gun-ə-n.

一、二頭、一台の大きな櫓を 作った という。

3-020

paalı oo-m bi-čči, əxin-di-wi, əxin-di-wi, bakčı oo-m bi-čči,

大きな櫓を 作っていて、自分の姉を、姉を 覆う布を 作っていて、

3-021

too-čči saalban bakčı-dı-wı tou-m bi-čči. juur bogoı=də,

それから 布の 覆いで、(鹿を) 放した のだ。二頭の 鹿を、

3-022

paŋtul bogoı nəə-m bi-čči, xəər-du tiin-čə gun-ə-n.

鹿を 櫓に繋いで、草原へ 放った という。

3-023

i-lə uli-kki-n i-lə uli-gin=ə,

どこへ 向かえば そっちへ 向かって行って、

3-024

gə, tiin-čə nəə-sə guŋ-kən gun-ə-n. tattuu,

さあ、放してしまった、と言った、という、そんな風に、

3-025

ər bogo-nın tar paalı-ji-wı paalı-wı ıra-m bi-čči uli-čči, əmun bogo-du,

この鹿が その 櫓で、櫓を 牽いていて、行って、ある 場所で、

3-026

ılı-čči nəə-sə gun-ə-n. əmun uriilən tuləə ılı-sa. ılı-sa,
停まったのだ という。一つの人家の外で停まった。停まった、

3-027

əmun ətxən saddı jūuri-xən bi-si-n gun-ə-n.
ある おじいさんと おばあさんの二人だけで いる という。

3-028

əmun utə-si gun-ə-n.
一人の子供持ちだ という。

3-029

gəntəxə=l ər saddı tuləə sixəmuu-sə gun-ə-n.
突然 この おばあさんが外へ 小便しに出て来た という。

3-030

’’ər miti-nii tuləə əmun paalı ılı-sa, əmun bogor təwə-sə,
「この私たちの家の外に、一台の櫓が 停まっている、一頭の鹿が 繫いである。

3-031

paalı bi-si-n,’’ gun-čə gun-ə-n.
櫓が ある、」と言った という。

3-032

too-čči=l saddı ətxən-ji-wi juu-čči nəə-sə gun-ə-n.
それから おばあさんは おじいさんと一緒に 出て みた という。

3-033

bakčri-wa-n naŋi-čči isə-čə əmun ɔnaajı bəi.
覆ってある布を開けて 見た、一人の女の 人だ。

3-034

’’əjə=si bi-kki-wi miti-nii=xəd jıjja=kət oo-so=gu,
「これは 私たちに 幸運が 現れたのか、

3-035

miti-nii jıjjaa xəbxəd əmə-sə=gu, miti naa əmun utə-si,
私たちの 幸運が やって来たのか、私たちには さらに一人の子がいる、

3-036

utə-nii-wil uxun jarm nıgıdaa-du-n xuləə-xən-či,
自分らの子を、何の ためにだろうか、その傍に 寝かせた、

3-037

əjəə-wə iıwu-čči nıgıdaa-du-n xuləə-xəŋ-gələi, gun-čə gun-ə-n,
この死んだ女を 運び入れて、この傍に 横にならせよ、と言った という、

3-038

too-čči iıwu-čči nıgıdaa-du-n xuləə-xən-čə.
それから、運び入れてから 傍に 寝かせた。

3-039

too-čči gəntəxən utə-nin gun-čə gun-ə-n,
それから 突然 子供は 言った という、

3-040

”juu-xə,” guŋ-kən akkan-du-n mōndaa-sa.
「起きろ、」と言って 彼女の背中を 叩いた。

3-041

mōŋdaa-čči=xin ta-li omotto-nim, xangoor oo-čči tixi-sə.
叩くと そこから 一個の石が、コロリと 出てきて 落ちた。

3-042

xaxoot-ta-n bi-sə gun-ə-n. tixi-sə, tixi-čči=xin, gə ər unaaʃi
詰まって いた という。 落ちた、落ちて、 さあ、この女の子は

3-043

sək-sə ʃaxsɪ tar uliirə-nii xuxi-nin oo-čči nəə-sə gun-ə-n.
目を覚ました後で、その家の子の 妻に なってしまった という。

3-044

tattuu bi-si-n. gəntəxən əmun ukkəəxən-si oo-so gun-ə-n.
そんな風に 暮していた。すぐに 一人の男の子持ちに なった という。

3-045

ukkəəxən-si oo-čči=xin ər saddi bəəbəə-rə-n gun-ə-n.
赤ん坊が 生まれてから、このおばあさんが 子守唄を歌う という、

3-046

ər ukkəəxəm-bə=nə. ”bə bə ʃəəxəi məggə-nin, ʃəə-nin bə bə
この 子供を。 「ブ～ブ～、ジューフイ・ムグンの 甥よ、ブ～ブ～、

3-047

ʃəkkərən xuta-nii utə-nin bə bə,” guŋ-kən=nə, ”bə bə
ジュックリン (姉の名) の子よ、ブ～ブ～、」と 言った、 「ブ～ブ～、

3-048

xalaa ətxə-nin omolɪ-nim bə bə xangai təggəə-nin suu-nin bə bə,”
おじいさんの 孫よ、ブ～ブ～、 車の 後ろに、ブ～ブ～、」と

3-049

guŋ-kən=nə, tattootin xarɪn əri,
言った。 そうしている ちょうどこの時に、

3-050

ʃəəxəi məggə-nin xarɪn ta-li ul-ʃi-sə bi-čči=ə gun-ən. gəntəxən
ジューフイ・ムグンが ちょうど そのあたりを 行っていた という、すぐに

3-051

ʃuu-di-n ii-sə. ər əmun saddi utə-ji bəəbəə-ʃi-rə-n.
その家へ 入って来た。この 一人のおばあさんが その子に 子守唄を歌っていた。

3-052

too-čči=l gun-čə gun-ə-n, ʔənixən, ənixən, əjjə bəəbəəl-bə-wi
それから 言った という、「伯母さん、伯母さん、この 子守唄を

3-053

daxm əmun mudan, bəəbəələmbə-xə,ʔ gun-čə gun-ə-n. too-čči=l,
もう 一度、 歌え、」と 言った という。 それから、

3-054

ər jəəxəi məggən-du naa bəəbəələmbə-sə, gun-ə-n. too-čči=l
この ジューファイ・ムグンに 再び 子守唄を 歌った という。 それから

3-055

gun-čə gun-ə-n. ʔəri, jəkkərən xuta i-lə nənə-čə,ʔ gun-čə gun-ə-n.
言った という。「この、ジュックリン (姉) は どこへ 行ったのか、」と 言った という。

3-056

ʔjəkkərən xuta muu gaʃu-naa-sa,ʔ gun-ə-n.
「ジュックリンは 水を 汲みに行った、」と 言う。

3-057

muu gaʃu-naa-sa-wa-n alaasi-sa=sɪ xarɪn əmə-ggi-sə
水を 汲みに行ったのを 待っていると、ちょうど こっちへ来た、

3-058

məənin əxi-nin. too-čči əxin-ji-wi baxa-ldi-sa.
自分の 姉が。 それから 姉と 再会した。

3-059

too-čči=l ər unugul ətə-čči=l. mana-wu-sa.
そうして この 話は 終わりだ。 尽きた。

3-4. コーパス 4

2003年3月2日、伊敏ソム ホンゴルジ・ガチャにて səsərmə氏より録音

4-001

əjjə əmun gordı əmun, norgol guŋ-kən bi-sə gun-ə-n.
この、ある 昔に、ある、ノルゴル と言う場所が あった という。

4-002

norgol=də, norgol guŋ-kən əsi i-lə=bəl sinjə. tulii-lə=l sinjə.
ノルゴルだ、ノルゴルと 言った、今 どこであるのか。別の土地だ。

4-003

norgol=tə gor doo=ba. əddu əmun nokkottın guŋ-kən əmun
ノルゴルは 遠い川だ。ここに 一人の ノッコーティン という名の 一人の

4-004

jaluu bi-si-n gun-ə-n, ərki, ad... jaluu bi-kki-n aduu-sı gun-ə-n,
若者が いた という、この、 若者 といえば 家畜持ちだ という、

4-005

əmun baraan, andaxa baraan aduu-sı. too-čči ənuu-čči=l,
とても たくさん、すごく たくさんの 家畜持ちだ。それから ああして、

4-006

saddı bool-tı-n aŋuu-sa gun-ə-n. ’’ajjaa, əri,
おばあさんの 奴隷へ 訊いた という。「ああ、この、

4-007

aduun jaal goldu oondı bəi bi-si-n gun-čə gun-ə-n. too-kkı
ヤール川には どんな 人がいるのか、と 言った という。すると、

4-008

jaal goldu bi-kki jasilan guŋ-kən əmun unaaŋı bi-si-n gun-čə gun-ə-n.
ヤール川 なら ヤシルン という 一人の 娘が いると 言う という。

4-009

gəə, too-kkı bii əri, əmun adı gaduun bii
さあ、それなら 私は この、何頭かの 家畜を 私は

4-010

jaal gol-du=xə ga-čči nəə-sə gun-ə-n.
ヤール川の所から 取られて しまった という。

4-011

too-čči=l əmə-ggi-i-ji=l abaa-dı janŋı-ra-n gun-ə-n.
それから 帰って来てから 父親に 話す という。

4-012

ajaa əmun adı gaduun aasm gun-čə.
ああ、何頭かの 家畜が 無くなったと 言った。

4-013

”too-kki sii naxældə-xə,
「それなら おまえは 追って行け、

4-014

saddi bool-bi aıxan-çı naxældə-xə,” gun-čə gun-ə-n.
おばあさんの 奴隷を 連れて 追って行け、」 と言った という。

4-015

too-čçı=l saddi bool-bi aıxan-çı naxældə-sə.
それから おばあさんの 奴隷を 連れて 追って行った。

4-016

too-čçı=l ər, təgguu-di aııuu-ra-n gun-ə-n, ər saddi bool-tıı-wı.
それから この、道の途中で 訊く という、この おばあさんの 自分の 奴隷に。

4-017

”ənixə, ənixə taja uxun aılçm bəi i-lə aasın-a-n.”
「おばさん、おばさん、この、何だ、 客人は どこに 寝るものか。」

4-018

”aılçm bəi bi-kki, baruun-dulı aasın-a-n,” gun-čə.
「客人 なら、 西側に 寝る、」と 言った。

4-019

”unaajı bəi i-lə aasın-a-n.”
「娘の 者は どこに 寝るのか。」

4-020

”unaajı bəi bi-kki marluu-lı aasın-a-n,” gun-čə. gəə, too-čçı=l
「娘 なら 真ん中の席に 寝る、」と 言った。 さあ、それから

4-021

ər urıırən-du əmun, aııa-r bogo bax-çı aıı-sa gun-ə-n əri jaluu.
この 人の家に、 ある 寝る 場所を 見つけて 泊まった という、この 若者は。

4-022

too-čçı=l dolbo juu-čçı, ər unaajı-du-n əmun, jalı-wı isuu-sə=sıtə.
それから 夜中に 起き出して、この 娘に 一つの、あれを 見せた。

4-023

too-čçı=xı ər unaajı-nın gun-čə gun-ə-n, ”aııjaa sii əmun, bogo-nıı
それから この 娘は 言った という、「ああ、あなたがある 地の

4-024

bool bi-kki-wı təggu-nıı tənuulə,
奴隷 なら、 ある道の 使用人 なら、

4-025

joodaa min-du xalda-ndı,” gun-čə gun-ə-n. too-čçı=xin ər jaluu
どうして 私を からかうのか、」 と言った という。 すると この 若者は

4-026

panči-m bi-čči, xaltaxa baggamba-n pur taan-či,
怒って しまって、片一方の 銀の腕輪を パツと 引き取って、

4-027

sur taan-či ga-sa gun-ə-n. too-čči juu-čči ul-čə gun-ə-n.
すばやく 引き抜いて 奪い取った という。それから 外へ出て 行った という。

4-028

juu-čči ul-či=xin uři-guři-n nəxəəldə-sə gun-ə-n.
出て 行くと、後ろから 追っかけて来た という。

4-029

”ajjaa, axaa axaa əjjə min-du baggamba buu-ggi-xə,” gun-ə-n.
「ああ、兄さん、兄さん、この 私に 腕輪を 返して、」と 言う。

4-030

”tīmaasın əddə juu-kki-wi, minii baggamba ugiilii-rə-n bii
「明日の 朝 起きて、私の 兄嫁が 訊いたら、私は

4-031

uxun guŋ-kən janji-mi,” guŋ-kən.
何と 話したらいいでしょう、」と 言った。

4-032

”xai, sii minə-wə bogo-nı bool-kkee təggu-nii tənūulə gun-čə-si
「おまえは 私のことを 地の 奴隷とか、道の 使用人とか 言ったんだから、

4-033

bii ə-si-m buu-ggi-rə. too-kki-wi sii, əsi juurii boolbiol dəgaaree,”
私は 返さないよ。それなら あなたは、今 二人で、

4-034

gun-ə-n, ər amıdal-du əmun ılan xailar guŋ-kən bi-si-n.
という、この 後ろの ある イランハイラル という名の場所がある。

4-035

sii, uugə-di-wi unən, amma-dı-wi addun-či bi-kki-wi,
あなたが、言うことはいつも真実で、口が 堅いなら、

4-036

sii tar bogo-du bi-čči ılan xonoo-du nənə-dəəwi,” gun-čə gun-ə-n.
あなたは その場所に、三日後に 行ってくれ、」と 言った という。

4-037

too-čči=xin ər unaaji, ”oo-do-n, ılan xonoo-du nənə-duu-nə.
すると この娘は、「いいわ、三日後に 行きます。

4-038

too-čči nənəm gun-čə-nin amıdal-du-n, əjə unaaji-nım nənə-m gun-ji-r-du-n
それから行く、と 言った その後で、この娘が 行こうとしている時に、

4-039

əri uxun, əxi-nin əmə-cçi nəə-sə gun-ə-n. əxi-nin əm-sə jaxsı,
この何だ、彼女の姉が来て しまった という、姉が 来たのだから、

4-040

nəxun-ji juuri aasin-çi nəə-sə gun-ə-n.
妹と 二人で 寝て しまった という。

4-041

too-čçi ər ilan xonoo-di-wi ori-du-n nənə-m ə-sə ətə-r gun-ə-n.
それから この三日 後の 夜に 行くことが できなかった という。

4-042

too-čçi tımaasın əddə ər ilan xailarsın-dola-wı
それから 次の日の 朝に この イランハイラルに、

4-043

ər unaaji nənə-çə gun-ə-n. nənə-r-tixi-n əri,
この 娘は 行った という。 行ったら この、

4-044

ilan xaiların-du-n əmun bitigi oo-čçi nəə-sə gun-ə-n.
イランハイラルに 一通の 手紙が 書いて 置いてあった という。

4-045

”amma-du-wı addun aasın uugə-du-wı unən aasın.
「口が 堅くなぞない、言葉は 本当じゃない、」と。

4-046

asın bəjə,” guş-kən nişii-sə gun-ə-n. too-čçi=xin ər unaaji,
「この女め、」と 悪口を書いてあった という。 それから この 娘も、

4-047

daxın pañçı-m bi-čçi bitigi oo-çi nəə-sə gun-ə-n.
やはり 怒って しまって、手紙を 書いて 置いた という。

4-048

ugud-di-wi, gun-ə-n, ”sii tannagan mandı bi-kki-wi,
あれに、 という、「あなたが そんなに ひどいのなら、

4-049

minii uji-guşi-wı bu-dəəwi,” guş-kən. ”ər jalıu
私の 後で 死ぬがよい、」と。 「この若者は

4-050

sii uugə-du-wı unən aasın, amma-du-wı addun aasın gun-çə-si jaxsı,
おまえの 言葉に 真実がない、口は 堅く ない、と言ったのなら、

4-051

sii daxın tannagan bəi. minii uji-guşi-wı bu-dəəwi,”
あなたも また そんな 人だ。私の 後で 死ぬがよい、」と

4-052

gun-čə gun-ə-n. too-čči gəntəxən əjə ələr saagıldu-ra-n.
言った という。それから突然 この人々は 不安に騒ぐこととなった、

4-053

əri, išə-nəə-sə=si ər, uxun-nim unaaŋi-nim xarim ta-du,
これが 見に行ったなら、この 何だっけ、娘は まさに そこで、

4-054

bu-čči nəə-sə gun-ə-n, mugguləə-čči bu-čči nəə-sə gun-ə-n.
死んで しまっていた という、 頭を樹に打ちつけて 死んでしまった という。

4-055

daxim əri, ʃaluu=na əmə-sə gun-ə-n. 'ər uxun xərəg oo-so,'
さらに この、若者も やって来た という。「これは 何という 事を したんだ、」と

4-056

gun-ə-n, 'uxun jawdala oo-so,' guŋ-kən əmə-čči isəddəliijir,
言う、「何て 事を したか、」と、 来て 見たらば、

4-057

xarim əri jasilan bu-tə-n bi-ŋi-rə-n gun-ə-n.
まさに この ヤシルンが 死んで いる という。

4-058

too-čči ər ʃaluu=na, tar moo-du mugguləə-čči bu-čči nəə-sə.
それから この 若者も、 その 樹に 頭を打ちつけて 死んでしまった。

4-059

too-čči=l=gu ər ʃuur ʃuu-nim ələr,
それからか この 二人の 家の 人々は、

4-060

bu-sə xudaa baldı ʃawa-čči nəə-sə gun-ə-n.
死んだ者たちの 結婚式を 執り行ったのだ という。

4-061

too-čči mana-wu-sa.
それで 終わり。

参考文献

IKEGAMI, Jiro 1974: Versuch einer Klassifikation der tungusischen Sprachen, *Sprache, Geschichte und Kultur der altaischen Völker*, 271-2, Akademie-Verlag, Berlin.

KAZAMA 2003: Basic Vocabulary (A) of Tungusic Languages, ELPR, A2-037, Osaka.

POPPE, N. N. 1931: *Materialy po solonskomu jazyku*, AN SSSR, Leningrad.

朝克 1991: 『エウンキ語基礎語彙集』, 言語文化接触に関する研究 第3号, SLCC 単刊シリーズ2, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 東京.

_____ 2003: 『エウエンキ語形態音韻論および名詞形態論』, 東京外国語大学アジア・アフ

リカ言語文化研究所, 東京.

朝克・津曲敏郎・風間伸次郎共編 1991: 『ソロン語基本例文集』, 北海道大学文学部, 札幌.

風間伸次郎 2003: 「アルタイ諸言語の3グループ (チュルク、モンゴル、ツングース)、及び朝鮮語、日本語の文法は本当に似ているのか - 対照文法の試み」, 『日本語系統論の現在』, 日文研叢書 31, アレキサンダー・ボビン/長田俊樹共編, 国際日本文化研究センター, 京都.

津曲敏郎 1989: 「ソロン語」, 『言語学大辞典 世界言語編 第2巻』, 三省堂, 東京.

_____ 編 1993: 『朝克著「エウンキ語基礎語彙集」索引』, ツングース言語文化論集 3, 小樽商科大学言語センター, 小樽.

_____ 1996: 「中国・ロシアのツングース諸語」, 『言語研究』, 第 110 号: 177-90, 日本言語学会.

朝克 1995: 『鄂温克語研究』, 民族出版社, 北京.

朝克・敖嫩・耐登・莫日根布和 1988: 『鄂温克民間故事』, 内蒙古文化出版社, 海拉尔.

杜道尔基編著 1998: 『鄂漢詞典』, 内蒙古文化出版社, 海拉尔.

吉特格勒図・陶克騰其其格 1999: 『碧藍色的宝石』, 民族出版社, 北京.

胡增益・朝克編著 1986: 『鄂温克語簡志』, 中国少数民族語言簡志双書, 民族出版社, 北京.